

中頭指導行政の基本方針 重点目標

最多・最大の最高を追求する中頭教育の創造

～地域に根ざし、共に子供の育ちを保障する魅力ある学校づくり～

重点事項「わったーわらび」の学力保障と成長保障

育成をめざす資質・能力

- 実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得
○未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成
○学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養

令和4年度状況

【全国体力・運動能力調査】
小：全国よりの種目
男子：握力・反復横跳び・ソフトボール投げ
女子：握力・反復横跳び・ソフトボール投げ
中：全国よりの種目
男子：握力・立ち幅跳び・ハンドボール投げ
女子：ハンドボール投げ
※小中ともに柔軟、持久力、走力に課題
小：肥満度( )の数値は全国平均
男子：18.5%(14.5%) 女子：13.3%(9.8%)
中：肥満度( )の数値は全国平均
男子：14.2%(11.5%) 女子：9.5%(7.7%)
【がん教育】実施している
(※中学校は教科以外での実施)
小学校：校34/67校、中学校：3校/32校
【学校保健委員会の開催】開催した
小学校：58校/68校、中学校：19校/32校

長期目標：持続可能な社会の創り手となる幼児児童生徒の育成

総括目標：幼児児童生徒一人一人に「生きる力」の基盤となる新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力を育む。

学校の教育活動全体を通じた体育・健康に関する指導の推進
○体力の向上
○健康の保持増進
○危機回避能力の育成
○部活の充実・適正化

- 1 全校体制による体力向上の推進(一校一運動等)
2 食生活や生活習慣に関する指導の充実
3 学校安全・防災教育の充実
4 学校・家庭・地域社会と連携した健康教育の充実
5 部活動(スポーツ少年団も含む)の充実と適正化
【基盤となる取組】…生活リズムの確立「早寝・早起き・朝ごはん運動」

学校の取組 保体・健康に関する指導の適切な実施

Diagram showing 5 pillars: 1 体力向上, 2 学校安全, 3 食育, 4 健康教育, 5 部活. Includes detailed text for each pillar.

学校の活性化に効果の期待できる取組

- 1 校長講話(めざす姿の共有)
2 指導案作成と授業実践
3 授業を補完する取組
4 五者会等へ学校事務職員が参加
5 学校評価の分析・活用
6 校長による授業参観と助言
7 評価システム面談にてめざす姿等の確認
8 校内教育支援委員会の充実

国・県の施策

【学習指導要領・総則(平成29年)】
発達段階を考慮し、学校の教育活動全体を通して
○健康で安全な生活
○豊かなスポーツライフの実現
○食育の推進・体力の向上
○安全に関する指導
○心身の健康の増進
○家庭や地域社会との連携
【学校教育における指導の努力点
令和5年度～令和9年度版】
○「5 健やかな心と体を育む 教育の充実」
○「15 食育の推進」
○「16 学校安全・防災教育の推進」

家庭の取組

- (1)生活リズムの確立
①「早寝・早起き・朝ごはん運動」の推進
②「食べて 動いて よく寝よう」
(2)望ましい食習慣の確立
①「日本型食生活」
(3)家族で日常的なスポーツや遊びのすすめ
①「家族で挑戦！がんばろうアップチャレンジ！！330」

教師の「3つの視座」に基づく教育の推進

- 第1視座 組織的な聞くことのしつけ
第2視座 主体的な学びづくり
子供のエネルギーを活用した活動づくり
第3視座 子供の自分の信頼を高める「勇気づけ」

学校の指導体制の改善・組織文化の創造

学校・課程・地域・関係機関との連携・協力

「重点取組」：体育・保健・領域等でバランスよく実施する

Table with 4 columns: 視点1 自己肯定感の高まり, 視点2 学び・育ちの実感, 視点3 組織的な関わり, 学校/授業改善ツール 具体的な教育活動の取組等. Contains 5 strategies (方策1-5).

カリキュラム・マネジメントを生かした自律的学校経営の推進

Progression diagram: しっかり教える (しっかり) -> じっくり考え、させてみる (じっくり) -> たっぶり価値つける (たっぶり) -> 自己肯定感の高まり (自己肯定感)

- ① 統一 発達段階に応じて学級経営や教科経営の内容・方法を統一し、校内で組織的に進める
② 徹底 評価と指導・支援を繰り返し定着するまであきらめない
③ 運動 学校におけるすべての指導を運動させ、一貫した方針による授業を実施する
④ 評価 取り組みの進捗状況を定期的に点検・評価し、課題については新たな改善策を講じる